

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 30	福山市立新市中央中学校
最終更新日		2019年(平成31年)4月12日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	よりよくかんがえる力、チャレンジする力、つながる力
<ul style="list-style-type: none"> 楽しい授業、これに尽きる。 一点集中で伸びる所を伸ばして欲しい。 一つのカテゴリーに当てはまらない子どももいる、個々の伸びを見て欲しい。 地域行事に参加させるなど生活経験を豊かにしてやることにより、挨拶や学力など生きていく力が付いてくる。 先生方は「来年やり直せば良い」と思わないで欲しい。子どもにとっては、来年や次がない1度きりの授業。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の全国学力調査では小学校1校が全て県平均を上回り、1校は国語が上回った。全体として改善が伺える。 新市スタンダードの生活4項目は全体的に良好で概ね90%を維持している。 昨年度の新体力テストでは小・中学校とも県平均を上回る種目が増え、その種目数は男子全体で105/168、女子全体で102/168である。 	<ul style="list-style-type: none"> めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、深めたり広げたりする子ども 自分の考えを、相手に分かりやすく伝え、納得させようとする子ども 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組もうとする子ども 互いのよさや違いを認め合い、協働して課題の解決策を創造しようとする子ども 国語では説明的文章を読む力の視点を意識した授業づくり。 算数・数学では筋道立てて表現する力を付ける授業づくり。 たふらさと学習では各校でつながりを意識した単元計画・授業づくり。 新市スタンダード学習5項目(準備、チャイム、話を聞く、姿勢、家庭学習)、生活4項目(挨拶、言葉づかい、身だしなみ、掃除)の徹底。

III 自校

ミッション	「夢を描き、その実現に向けて努力し続ける生徒」を育て、生徒・保護者及び地域社会の期待に応える学校づくりを推し進める。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	よりよくかんがえる力	チャレンジする力	つながる力
学校教育目標	豊かな心を持ち、主体的に問題解決に取り組む生徒を育成する。	めざす子ども像	1年	2・3年	
現状	<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査では、国語A・B、数学A・B、理科のすべてで全国平均を下回っている。 「目標を意識して授業をする」生徒89%、「目標に沿って振り返る」生徒96%である。 「目標を意識して活動している」生徒78%、「目標を達成した」部 6/16である。 新市スタンダードでは、準備83%、チャイム73%、話を聞く80%、姿勢81%、家庭学習71%、挨拶84%、言葉づかい92%、身だしなみ98%、掃除75%である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マップとアクションプランに基づいて、全教員が子ども主体の学びにむけた授業改善に取り組んでいる。「個人のアクションプランを意識して授業改善に努めている」教員100%、「主体的・対話的な学びにしているために、生徒の声を一層上手に拾ったり、生徒が行き詰った時に生徒同士を一層つないだりする授業を仕組んだ」教員88%、「よりよく考えさせるために、資料を活用する授業や、自分の考えや他者の考えを交流した後に再度自分の考えを書かせる授業を仕組んだ」教員76%、「カリキュラム・マップに基づいて課題発見・解決学習に取り組んだ」教員95%、「授業力が向上してきていると感じる」71%、「考え、議論する道徳」に向け、授業改善を進めた教員79%である。子ども主体の学びに向けた授業づくりに、全教員で現状や手立てを共有しながら、挑戦し続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 習得した知識やスキルを活用し、情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、判断や意思決定をしている。 自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、相手に分かりやすく伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を立て、見通しを持って取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや違いを認め合い、協働して課題解決をしようとしている。 	
		研究	教科等	道徳	
			主題・内容等	<p>(研究主題) 思考力・表現力の育成</p> <p>(研究内容) 「子ども主体の学び 全教室展開」に向けて、それぞれの教科で、どう考えさせ、どう伝えさせ、どう自分の考えを持たせるのか。また、行き詰った時に、生徒同士をどうつなげ、自分たちで解決させるのか。</p> <p>・「考え、議論する道徳」に向けて、どう改善していくのか。</p>	
		めざす授業の姿			<ul style="list-style-type: none"> 意欲・関心や疑問を持たせるような導入の工夫を行い、「どの考え方が使えるか」、「他のやり方は」、「分かりやすい伝え方は」と意欲的・主体的に考える授業(よりよく考える力) 毎時間の目標を意識して、その達成に向けて意欲的・主体的に取り組み、まとめを自分の言葉で表現させて、目標が達成できたかを自分の言葉で振り返る授業(チャレンジする力) 他者と意欲的・主体的にかかわり、協働して課題解決する授業(つながる力)

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市中央中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	「子ども主体の 学び」全教室展 開」の推進	★	継続	よりよく考える 力を育成する。	教師が、「生徒の声を 聴く」、「生徒の考え を認める」「生徒が行 き詰まった時に生徒同 士をつなぐ」、「グル ープ協議後に個々の生 徒に考えを持たせる」	・授業がよく分かる生 徒85%、授業が面白 い生徒90% ・子ども主体の学びの 授業づくりに挑戦す る教師100%、考え、 議論する道徳に挑戦 する教師100%	・授業がよく分かる生徒 84%、授業が面白い生 徒86% ・子ども主体の学びの授 業づくりに挑戦する教 師95%、考え、議論す る道徳に挑戦する教師 86%	4	3	・各教科や個人で、 引き続き、70%以 上を意識して授業 改善に努める。 ・道徳科授業の教材 分析・指導案作成の 充実を学年単位で 図る。					
			継続	つながる力を育 成する。	教師が、課題発見・解 決学習や総合的な学習 の時間を通して、協働 して課題解決する生徒 を育成する。	課題発見・解決学習 や総合的な学習の時 間を通して、協働し て課題解決する活動 を仕組む教師 100%	課題発見・解決学習や 総合的な学習の時間 を通して、協働して課 題解決する活動を仕組 む教師90%	4	3	一斉研修や校内相 互参観授業で、互 いの課題発見・解 決学習を学び合 い、自分の授業に 活かす。					
			★	継続	チャレンジする 力を育成する。	生徒会活動や部活動、 行事において、生徒た ちに、目標や、その達 成に向けた計画・活動 を考えさせ、取り組ま せる。	生徒会活動・部活 動・行事において、 目標を立て、その達 成に向けた計画・活 動を考える生徒 80%	生徒会活動・部活動・ 行事において、目標を 立て、その達成向け た計画・活動を考え る生徒80% (1年73%、2年 74%、3年92%)	4	4	2年生には生徒会 活動や部活動の新 リーダーの自覚を 持たせ育ててい く。1年生には中 堅学年に向けての 自覚を持たせる。				
			新規	学校における働 き方改革取組を 推進する。	業務改善を推進し、教 師が生徒に向き合っ たり、授業づくりにあ たりする時間を確保す る。	時間外勤務 月80時間 以内の教職員100%	・業務改善について職 員研修を持ち、議論 し、可能な所から取り 組んでいる。 ・時間外勤務 月 80 時 間以内の教職員 99%	4	3	引き続き、議論し 取り組んでいくと ともに、来年度に 向けて、教育活動 全般の見直しを行 う。					
2	市民一丸となっ た取組の推進	継続	生徒の地域貢献 活動を推進する。	ボランティア活動や地 域行事への参加を奨励 するとともに、それら の頑張りを評価する。	・ボランティア活動に 参加する生徒70% ・地域行事に参加する 生徒70%	・学校元気大賞受賞を 契機に校内ボランティア 表彰や小規模ボランテ アを新たに実施してい る。 ・ボランティア参加生徒 70%、地域行事参加 生徒89%	4	4	ボランティアや地域行 事への参加奨励や 評価を一層行う。 また総合的な学習 の時間の加算見 直しを検討する。						

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。